



今月の特集 ■ 暮らしを明るく、温かく

日差しを取り込む家づくり

■南向きの部屋だけではなく、どの方角でも明るい住まいへ

草木が芽吹く春、日差しが心地いい季節になりました。これから新築や建て替えを予定されている方は、日差しをたっぷり取り込む家づくりを考えてみてはいかがでしょうか？宅地が住宅密集地にあたり、周囲に高い建物がある場合でも、工夫次第で日差しを取り込む家づくりはできます。一般的に間取りを考えると、光がたくさん入る南側に多く開口部を設けますが、あらゆる方角で採光性を高めることは可能。まずは、間取りと方角、日差しの関係についてご紹介します。

最も日照時間が長い南側の部屋は、昼間は家にいてリビングで過ごす時間が多い人にオススメ。冬でも暖かく暖房費も節約できます。しかし、夏は朝から室温が高くなるデメリットもあり、それを補うためにひさしを設けたり、サッシを遮熱タイプにする必要があります。

東側の部屋は朝日が最も入り、朝日を浴びながら爽やかに朝食を楽しむダイニング向き。朝日を浴びることで体内時計が狂いにくくなり、1日を気持ちよくアクティブに。南側に日光を遮る建物がある場合は、代わりに東側に大きな開口部を設けることをオススメします。

西側の部屋は、夏は西日の日差しが

太陽光を取り入れ、明るい環境で暮らすことは、快適な住まいの条件。しかし、住宅密集地で採光性を高めるためには工夫が必要です。どんな条件でも、明るい日差しをたっぷり取り込む家づくり。どのようなアイデアがあるのでしょうか？

強く暑いと思われがちですが、工夫次第で遮ることは可能。午後から夕方にかけて日が差し込むので、バルコニーや寝室に向いています。美しい夕日を眺めたいという方には、西側のリビングもオススメです。

北側は光が差し込まないイメージがありますが、まったく光が入らないわけではありません。時間帯による日差しの影響が少ないため、一日中安定した明るさの部屋に。書斎、水回り、納戸、仕事部屋などに向いています。

■プライバシーを守りながら、陽差しをたっぷり取り込める

住宅密集地や道路に面したリビングでは、ハイサイドライトを設けたり、部屋の高い位置に横長の窓を設けるなど、外か

らの視線をカットしながら、光を取り込むことができます。また、中庭を設け、囲むように部屋を配置して窓をとれば、どの部屋にも日差しを取り込むことができます。

既存住宅でどうしてもカーテンを開けずには暮らしていくというお住まいでは、市販されているブラインドやカーテンなど窓回りの商品選びを工夫しましょう。たとえば、上だけ、または上下を開けることのできるブリーツスクリーンや、厚地と薄地など二枚の生地を組み合わせたブリーツスクリーンなら、プライバシーを守りながら採光を確保することができます。

光が入ってこない暗い部屋は、ジメジメしてカビが発生したり、建物の寿命を縮めてしまうことも。住まいの健康のためにも、日差しをたっぷり取り込む明るい家づくりがオススメです。



住まいの知恵袋

珪藻土

健康やエコロジー意識の高まりから、自然素材の内装材として珪藻土が人気を集めています。珪藻土は、植物性プランクトン(珪藻)が海底や湖底に堆積して化石化した天然の鉱物。微小の孔を無数に持っていて、壁や天井の内装材として用いると自然に吸湿・放湿を繰り返し、室内の湿度をコントロールします。結露を防ぐのでカビやダニ対策に有効とされ、



タバコやペットの臭い、ホルムアルデヒドも吸着する、脱臭性や保温・断熱効果も期待できる素材です。

仕上がりは「ゆず肌」と呼ばれるザラザラした表情。多くのメーカーから珪藻土建材が発売されており、カラーやテクスチャーのバリエーションも豊富です。



DIY

多肉植物

多肉植物は、極度に乾燥した土地や塩分の多い土地で生きていくために、葉や茎や根に水分を貯めることができる植物。近年人気のサボテンも多肉植物の一種です。多肉植物の大半は水だけでできていて、見た目がぷくぷくとかわいらしく、個性豊かで種類も多彩。水やりの手間があまりいらず、園芸ビギナーにも育てやすい植物です。

1種類だけ植えても楽しめますが、異なる種類を組み合わせる「寄せ植え」するのがオススメ。スタンダードな鉢はもちろん、お気に入りの陶器やアンティーク調のブリキ缶などにこだわったり、壁に飾るリース型、空間に吊るすハンギング型など、自由な発想でお部屋をアレンジできます。



おカネの豆知識

地震保険

地震保険は、損保会社が販売する火災保険とのセット商品で、建物と家財に分けて加入する必要があり、保険金額は火災保険の30~50%。2,000万円の契約なら最大1,000万円が地震保険の補償額になります。全額補償にはなりませんが、特にローン残高が多い方には必須の備えだといえます。



暮らしの1POINT

花見

春の足音とともに近づくお花見シーズン。飲めや歌えの宴会もいいけれど、花見本来の「桜を愛でる」情緒も大切にしたいですね。いつものおむすびも桜の花の塩漬けをプラスするだけで華やかな花見弁当に。食器も使い捨てではなく持参すれば風情も満点。酒器の中に浮かぶ花びらが美酒をいっそう引き立てます。



Dr. 住まいる

お風呂のお手入れ

お風呂掃除を楽にするコツは入浴後にあり！入浴後は蒸気とお湯で皮脂が浮いて、簡単に汚れが落とせます。鏡の水垢は新聞紙を濡らして拭くとピカピカに。排水口の髪の毛はその都度捨て、最後に浴室全体に冷水シャワーをかけて室温を下げてカビを予防。とにかく汚れを溜めないことが大切です。

